大學二十四孝　市守彦著　三四
葉六ノ六

1694
2

門へ 13
特 1694
巻 2

市守老君

ひさかたの天の小橋の結先
八河ふあひさうへうしうえ世からあの世バ結ひ
庭園とそみかたうへうされを勇まつくあゆけたゆま
ちの方のくをたして玉たの乃乃みをたけさつく
だゆくくたくあのよくくたをあの
つくの方ちばうをくつま
をたくさるかあ夜ばいを夫婦づらとナふ
くくるかちばいくをくの人おを義よ
うのさ海て月日をたくうの結ひ先祭ふ乃つく人
とあくされをせんをあして夫婦乃人くハ市あくと義
たくしおくの松とくくひ出ひ山と乞食のくの稲よ

日本七四巻三

て侍りしあるさのあるじとおぼしき人のこゝろとてやうに三條の
宮の頃毎よ六こびの帝にまゐりあるじ人のたゝりくあるいま
あるの中ねたらく世やうしの帝こゝろたいして苦
よんこゝろおろくのたゞひとりうまいてくあるこゝろ
ちこゝにばせ帝ノ乃ちこゝてへいうあるこゝろ
ありそくゆきさぶへこゝろ。強見こゝておこゝれ世
の中ゝ和歌おぼくたちもこゝろ
きばこのむへきこゝりあ。かゝてこゝうあるようこゝまんさ
らへゆきて月ごやこゝいひく。史世の人ハ帝にあ尾が
もとひきやうくたりめ。三條の宮めぞつ
きかけ帝ゝにぎうこゝ宮ノ乃ちこゝ
夢こゝりくてこゝ和こゝちこゝ

とゝ。福原宮乃こゝろ。ゝ。ゝ。ゝ

ちのこと第一と指南にしたがひて、業数
のこりなくとりあつめ、唐土の高の名
とつかさどりかねて年月をゆきすぎに、帝の十二乃
はちをの父母聞とまどひ、母はつさとひわつらひ
たれど、帝のひとり帝にふさはしのこがき来紙
ちさあり、むらに乃友こ侯のあり、さとひとりこと
重恵重恵乃さしてさとうめ、まんに麻乃衣ひ
しんぶに被を神にあるざるすそみはつらぶらぶらき
あり、からみはあれとてけたぶみひとみ
さらあるこ父母とこうつうはおしてしたち
やうに十年あまりふあ風あるへはうれと
て帝守とうまびあるはあの地ひあ帝

るが親あり、たるを受及びひとりあること親
たちはとりのさまひるはばかりあるはあ
るもあるべどうるいるうよるべーと行ま
たれど、夫婦いるのあるべはるこびくるまくはあり
例ようまてあを大力あるあ山帝のだ先さへう乗
まあるいでうれーこ中べさとて帝のあること云
帝のあるてやうるはこいはいもうあ地をれ我
さやうふるりゆうでうまやあるれて先ある親
とうごくむべさだ親せのもひでは父母よあーつう
まておうるるのゆとせんを行りうぐうめりに門
めんるまてこうまて耳をを文よ中いまで地
ひうーつ中て実帝あるあるるるるるる世のこ

大ゝさ殺生はしらぬ人のそんでハ殺ともあるとをもはれハ
あるひとりのこがらをんなとをもはれぐひもちくあり
歳しつくはりくもつ
ひく目どうるをんしれ
はぐるとゝおよ大ゝ姉の人をけつぐあるれ升もも
家ぬひさたしをゝ出られであるれ升もをゝそゝ
年ゝ賀ゝ村名二十　金ゝを仏ゝ賀ゝ村名大ゝ
家ゝ名ゝ村ゝ宮ゝ方ゝ宮ゝ方ゝ宮ゝの義と宮ゝ屋ゝの門
ゝ屋ゝ七郎ゝ方ゝ奥ゝ
二代ハつくるゝ無ゝ
しゆ生ゝとゝをゝいゝ
はゝうゝ者ゝ毎ゝよ通ゝ

へ[illegible]とうのひく[illegible]ぬきあ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]れ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]

あり先ゝ[illegible]ちんちんよんとうくらんと発して
口論の地情奥と我お他と有るうひ久方ぶり
しつ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

社佛宮あを出とうけ元の中へ長へて八行ゆく
のくと機ころとかの敷のゆをがくこらくのかりと
やらあををこれまはいうぞまこうへさ世屋敷の義
前をれくがつくをちとあ御をきかへ入さらく
まををそくこのうてうれとあ。雲道のこうく
月日をを法ゆくてうをを。日月ふるりぬを元
元三のうをひごをとりあるあまりあを元八
あこにはゆてうりく大とりいをよこうまを元
日をれを大ひをがとをありうらうばを元
八後をこうく為蓋ふいこうらさうるひ姫元八神一
強てあまちものまを味あをは元ちをむりの
たまを今日八元日をを法ゆをこのうを日ばかりうて新ぬ

高げのこくひをでもいををあく元行をを八巻
太うれをを伊分八元ちを後といをれく結へよあるを
結分をあをば結うをを年のうをめとはうをひ結ん
まをうをいをををくうをありをを海八りりをくをを
と源をあうのこまへを元ちを八をを服ををを。ゆり
を伊分が耳をもいくぬいうをんがをこう中にうをしめう
はうをふあをををを。をまを。とうくべをうをあををしを八を
うををて。はうをうを八かあをまを。ふまを。うをを出をを長あを元
いをりをや姫元ちをを。がふうをうを。元をあをを八元
ちををうを。やいうをりをて。ゆりとよんをあを元をを元
とを行が先を。をらあをていををそうをのをひうを
らひよをを海りを元ありをひを八へを。を元ちをりを元をよ

つまをもとめあるきもとめさまよひ行くことあり
まつかぜひびきまつにとりかはるを
をりてきんくふうの
人とおもうらをもつけ
りはるをもとやとふだ
かぐらぶくそつもをれそ
おぐらそのをいはやまぐさのまきもり
ふるくあるとにげ出あり
西伝をんと三あるふもちをいはいくをいうをあるわの女
乃伝さらんとはおもんどもそだたまを北切くあげを
りべーとしまつにをかるをとをわれをそのの
つきうひすやはそれをんばあるをにをんをあるさら

[illegible]

[illegible]

[illegible]

井のもとのたもとびむをわれちぎろうのうさぎあれゆ
くゑをゆくくあにをうげのぎをれどやうてあ
ざやこのてがてこのあてこれをあてうつさとを
ひ出くどうとをうけさうふ沢のつけうのうちをう
さしゐ毛日のうをうはまうのでつ通旅として新もをづ
現世あ稚拙生善和といのうつまづ和ゆてさ
うをおくさいの山とをうしまばうをさ嶺のひ
面もうをゆめわらふかえうれど姫えん一首
たうねとねうを丸の夜うをやうを山ひめ姫うをん
とうらあづめ拾つて天
をたのめさを山ひめ姫
いうをうを世のかーまう

をうひうを表々大巻をてこうらきを
とあうをうばえひ丸えざを丸
あまのをとうもひ
と緑ぐ拾あとをふ
をうをるたうをうれ世
をうれうあ
つまに庵ぐをあ
里あぞつをたけうをて
ハ家若いうを市庵
天女八丸やうをこふを
さ物拾ひて里うをう
みをわあわづやみを

すこしづゝ雨あがりまだ沖の方をまゝにたつまき物
物すさまじくたゞよひくだるべしとのこまひく間ふつゝ
ぬふとみてまぢかくよりてくふなりつよくふきれど
も船ゆくこゝろかはらずちよつとんもつひとる方をうて
ゆくべきとこゝろやもちゝひて西の御とのゝ八潮
くゝてゆくゝまゝらわたとくやをるか
げよ老くるふ人ゝゝ乃月とうやわらて年たけさ
ふ女乃ぬつゝふをゝぐれゝゝとゝおりゝゝ行り
けりはゝと夜うゝぎろ乃夢とゝて月ゝゝ紅葉ゝを
たゞゝさわゝまりくゝ月とゝ八旬りを
ゝけゝう歩行ゝんとゝ花ゝ傷ゝ
のゝゝゝとゝつまゝゝゝ

さ弱なるひとくさ[illegible]つよう[illegible]ひ子少はさ弱なれど
[illegible]き姫君の[illegible]ふ[illegible]りろくしきと我ろ
[illegible]くさひ先ろ[illegible]の妻[illegible]ろ[illegible]今是[illegible]
[illegible]ろ妻と定めよ[illegible]ろ[illegible]ぐたろぐしろの[illegible]
ひく関白よろ弱なろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ
とれなてゆめ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]て作ろ[illegible]父
ゆろく[illegible]ろ[illegible]ふ物はおふもあろもちぐめハ
なさ[illegible]ぞろ[illegible]ふ[illegible]ろとたろて姫君ハ[illegible]ろ
あんろひゃさんとの[illegible]ま[illegible]ろをたそとまろふいや
そろしうとたろいぐ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろのか
ふが親[illegible]ろて[illegible]ろ[illegible]ば
[illegible]稚乃[illegible]ふ[illegible]ろ[illegible]ゆ[illegible]ろ[illegible]ぐ

ろふく[illegible]ろ[illegible]ぐ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ
姫[illegible]乃[illegible]ぐ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ
[illegible]ぐ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ
とぐ[illegible]ろ[illegible]ぐ[illegible]ろ[illegible]ぐ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ
よろ[illegible]ぐ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ
なろ[illegible]ぐ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ
たろ[illegible]ぐ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ
やろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ
ろく[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ
とろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ
男ひろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ
姫[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ

わ〜のかうさやうふさ紫の唐りふいらづくふ清あを
とうづきあれたのーそれとてもかあ〜こあさへい〜
物あへとくうらへいまさいつせばあ〜とあさをたなど
ーつ庭うくふてうらごとづ巫乃わさつたず金
さいつをて神文よむうひいつやうたづと知りし義ふ
見ーー姫君はしあまぬ〜ぬ〜ざの清つげや
れ命為あをいまづ書もあ〜といふと姫ぬ〜ぬて
ちさうらて清勇い行くすとやく人乃ぬんとも
らでとうひてうらそむこさ君うに命あ庭づたく
つとうてこいうあるふはまうたげ清ーあつや
きわ庭れ関へいまこまいつを姫あんをいふくをて姫
ぬはうづーぬうてかいふちづきてうらとさふ

もづくはてうひあくうあ乃ーこ清てけ
をうすづ為来あく神ばしとづきとあふ
ちてうさづり勇をわあ乃ーをんあ乃ひ神
ーくてものらいとうくれ神とをいとづうらあーぬ
姫ーやうそれ〜乃ちぎりいうをうさをうづまあろも宮あ
いうお物づう〜ちさ〜うあ業乃唐ふをたても花を
ーまんあべ約を来いを先づたりあべーわうもいふ
ーへいよりーーまをうまたづくやらぶうをうさ西
のあひなりと文命為ををんづくまいやーうーど
てんづ後ち人うをづ庭作ーをかーとうまづを
来ーのをーを知りーーを先をやづーうーーいひうま
ばー姫をを神りけりのーあーせとおづ先ーー神西

りまもせて一日くらしの時分にあるよりて花の
きくひもまいりひらりふりをもくかとそのころ
をたちかうひうのをはしらにさんぼり
うりんぼりよりまてくとものづくり紙うりひくぞな
つまたうるひもたぐさいたぐ帝がもだしのうるれ
とたのりもたがり紙てこうるかさまをぞひふ
しまあるよりとうぐさうて月日をおろり給ひうる
これいこ梅の枝をさてを丹波の長者ひろうり
つう母はの方ちくびたうるまだといいそんすぐさえ
もりがうやとけ蓮のをたるぶの母月ちの家
つとそこうれるとやたるとをうとぐうりてや
月のうちくを入金ちくどもあるさらあるうりさら

あて三月をくやふるどれ、ろうよりしゃばさあ
ゆうりぐよ、ぬ、ぬ、ぬ

ゆうきをりきしまの姫神ゆふうてれあけまへ姫たの父母
大きなる母ごろうきあひくいそぎくんとつうてもあり
さあ海をあんせるくんむ波ひうひとつとりくやあう
作りを初ほうりしくんと二人を波くぞ焼死ろうし
と云国司史母ろれあけさゆきやとうりを姫
八津のありくあびやらんろ船ろうあまいまそあの
そうをあしうだうどんげよあるんれしてうざ
しろ光ろぶごろろ玉神ようろ蓮花ろそぐて
とこそを何ろむくひそくそぐくんこれあり船
やんうりあうろうるくんこ稲ゆ命のあるを
ありて父母よ行うやう母はのいよきこ村
ろ出ゆ親ろうあて思ろのこ好むこなあ

月十五日にはまんまんやうろ波ろうあ者文者
ろうくるまで一人を波くぞやけそそうとくの船
つをて作あくあるまのまやくつを姫ゆ出よ
つをむひうろうくぞくんくすくあれ坊ん
あいをそれくきうやけくむよあまろ神の
び行ようのくあきあの(で姫)ハはあり船と刀まつ粉
こいいうふぐくとの波行をよあいくぞろこの名う
らびむつるすろやつぞくうやうふ光ゆつくと
れがて神をうがよそあくこがるく海を稲のこ
ひうんゆをあよわくハがいくそそうりのくんぐそい
やを刻てやうろむくこ(ハ洞)ろつくそまれろく
あうくそれりして姫ゆハあをもゆくをゆ出刻りくぐ

れわけうくて世わたらげるやうをとうしくるうを
ば年ゐのいとうとび初瀬へのぼりうんたとめんと百
日まゐでとうて免けるがはりくんこと稲ゐとまた
ゐりけうこうハ裏乃ちとゐ川さとあゐさわ焼ごさ
ゐ。こ稲ことうをの宮あゐのよ大きうる思ゐかあう
こぎまんゐあまてうまて出でーげよゐんこうぶふ
ことうたちうまゐとむちびあぐるよ思のひよ河
あうくこ年ふこぐひまんくこうごうこびこうく
こうこ女母うまいこせ。ぐうこぐまいうぐうあ。それ
こうしてび金ことうこ。ン巻ざれこすかうら富
き乃都ことうくいあ。ゐんこくこの乃ぐ
ひこうとあゐ免稲井ことう

まとかうんごとうらふかの屋うとつくるのよ屋やうと面
をべうるとしひつくへ結ぶべ今屋面ぬよ出雲とや
うくうれうん義ち義とうとうあるまうまう三千余ゐうと
ち義とうひまう山乃ちくくたひめ云ハたうべ者ん
又母乃ぬうくくくくと面くくまつくせ結ぶそ乃
ちくくに井戸と母ひ出されてぬうう乃ゐうとうり
ゐうくくまう久ハ神伝乃渡川合せうていまうく先
てたき世ふあひうるまやでうたつくねてまつくとゐ
ゐ国ちうぬいきうて色ハまくとうやたわの者ま
いうくくき漆ハ出ゐくうりとゐくハ我ふてゐけう
ゐうう義ううくくゐ義ゐうくくいさうくくのほと
ゐくひうあるりハ主母ゐくうつハ結て

ちうくあげてそゐうれうるくくくびゐうくくゐ結を
とゐうゐ河乃まうるうくゐ屋ありくくゐうくくハ我ふま
たけうんうくくくく

をまつりさこうをのしりぞけらりくふ行りしうぶ
くれんとうひてを國たくさと給ぬをたにうるかんぐに
あくれぐさて伊とう毒ちんとおだうつるかくとうを
くく祢ふを行をもと一ゑうびぬるよあるをせてさうぐ
めんと行うち半のうひありくぬ月ふめぐりあのこと
あくだかうふめぐくうれうを行とと月るまのうれさよ
うれうをを中ゆ月異ぬつのぬうりつくゆ中まに教
あうとの行んべ姫とうぐとかりしさくたとこゆく
と行りあふよ教りら殺宣よ和く月ふ對面ひて
くくふりさまふくとうへうこうけるとあ月にかくこう
つくぐ殺けうこけ教ふ月ふ月ふくくうがつけ
ふくうりく教ぐくうるふ月の伊綱。

おかつくへがひうりようてくをばうつをくゆをこうば
百ふ月度よゆづりうをしのさまひてぶ月殺一ふを
百金所くのまんくけたくとおそくうるくあふ行りあ月
里へをうりたまうは姫ふのあうとうくさあくとうを和
小屋さとうくくれう月しぐぬけ戸の文殊乃奥
絶さどくまし伊とくと市ふ月度ふ行りあひて
すふりら我わくうとに山堂と立て文殊の弓祇とて
つをとふとくさをりあひと面代まで行くの文殊とり
て利をわくたふ伊まうんりうふめぐたさう行
と市に市さ山先されくがさぐあふくを二稲ふん
里へ行を市あうべくと宮ふうをとぐさ行くくふ市ふの赤
の先ふうべうりうこひこゆをうたふゆこりうこふ

あやめ、さと義ろうしへ、や家
と俗り行きるふやうそみゆきさ
け紙のもを中よ金紙と車の絵よつとみてたく
ちつ、者ーは惣よ花り立て橋の万紙もんとあ
ざ名とぐ行ふ先世のくだ者ちもんせ
うりろふ伝世者ろうのまれんいい三千年年
ぐもう面白いふとまろうしてごうぶん貧者
世年ろふとの者ー寺世もいい三千年ごろ者親
者りの婚よろと者ー約者ようしくろうぐこと
ろうしさぐられもなちもいい父母まり婚ものろて
う者命ーいなりひろまーわて業者とさいんさ
ちしまー萬代ろてるふまくんでられ世のそ

為一ゆを帝ものちやうでやとらくとうや

市寄長看紙

業ちなる

津乃国兵庫の色ゝ東ちまとてうたのしをがや山
人家まづうれ先年ゆかりおして作れとうやまひ
ちり父母より若りうくつとうり紙ちうたひちまつ川を
色の黄にをぬれ山ゆづり業ふだけあくこの
ゆづりまづゆづりとうたへ舟よつて新へのかり色とう
つとて父母とやゝあゆみかんゝいゆづりうちまとそ
ゆくふりて年をとれでさみるりしうべ郷のこく
色ちまゆづりとうりて山舟よつてそんでうの色
とこうこうにうに西乃だけの方ちう大風ちうあ
あちまちりくあういその波乃音い大山をうけあ
つくうこがつ色屋いくとありし海のなてふ儀のふ

月ハ富山のおとこ一天ぐもりふうとなりてあり
さあひてさるがくあり。能舞とこゆる
白波より山あちふれ〳〵まいりしに能一のくハ
うかの舞ゑたちまちてはちまきとこゝろあれ
ぐもりよりあるを文よ舞どしてふ
かつてとうつまりて思とわかりてやうハいの
ありて山あとりそんくどあつそれあそよ
能稚そんでいかまして風あまてあれば稚とれさ
へよりごとが風よりあまあるばかりこと切く風とど
とせれをいたづらふづかとうりとく
一絶能よ付て能をしたりて元揃ちあつハ面稚
へふるとれとあるとてはいとてまつりてうとあ

まのせいなさいのうけ能人物あるハ生れなり
二番とるくうりて能をしてのあやまりのこれハ毎
こゝろまあくあるかとしてのあやまりのこれハ毎
年山面とうとうつまるよのかりうふとうれ面能
うふまをおつく一分とたとうんためのこにあした
老うう父母とうこゝ面母こゝたれ先あれば天神地神
能神をしあつたとこ変ありてひうこ風とあれめ
てうびあへもや天乃二十八宿地乃二十六ゝ
三千大千神仏ハ四ごの座ちやうをいかく毎
ふこゝいつとうこゝよおようもん会ね部者力たうふ
のうをつどさん文とうるへ毎のゆうりとはよ

来とうく海中へうげ入これと船神ふたてまつり
江納交まし海をとゝ対まこに船神も納交や
まし〳〵もを海風とうゝ行さまりうるに和年乃
かゝ十二こいりうしたれかゝ　さ者と子世よりる之那され
海ゝて海乃うゝよ之勢始ひてのこまゝいうる面く
物とうけ上度ハ出東上実の仏行〳〵切ゆるゆゝずかい
ち海風とれさひ面地さて又ゆうりとそしけ
ち面礼いかされくうゝ〳〵とのこまひく海乃底
よ入らを始へと空方の之夢こまゝうれく海風
ち月まを度みかへうるひ大物の浦よ毎とう勢
同船を一うのをいひくゝまわうりふかう之
物とさてのかのうゝ海ゆうりとうゝ

ぶのたゝねまうらんと尼ヶ浦の浦を通りそうにさい
きん浦乃うくまうくまうの船よりの元しきそのみ船よのうて
船ちくまうくまうくて古美よむひて行けるばいくに業
古美あんぢうかうちうる紙まうり君ぞ子それば
ざわぐりまくとなる浦をわりて古美とかいあよの船
あひて古ぐくるこゝにゆくせ船ひしくばや
ぐてあうの地まうくまうくまうくまあうるせ船へ美
色ちにあぐりて沖あうたうきあゆうまりよひとの
大河あぐれくぐぐくくまうさうさ千金美りて
こうけかぐうり古ありの船めうろゆき船
古やこのくうの船千よむのこがしめ
やうこうこうこう美やあうこうこうぐりぐりぐりう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大きさはくの内経りんかんら世ひ一分にけ
しゆつりと多くあるこしこと世礼に黄金とゆ
づりのごとくかつくら勢て注華しちく丈文字の数
にしたがへ六万九千三百八十余字文りあるこへ経書り
とあるりとれ管人先うけるこ西りりかの黄金と毒ま
つ心書まと定ちりあるとのひて字文と同りて毒に
為りてずりて世りるか生面より浦よりて世経へのまま
八銭とばられとるりて新り生仏の化現あり
あんら書物ものきにるる天れわりまこにあんりあ
とは光が新
ちるかりら伝う
天よあど

たゝれど第五第六のまき紙ひらきなれば又母
家とつくるも第七と又毎りたくさんの親方達
あんをんふさうへけるさいはあるをこゞとばゆるし
なりうりたるなれ

業古美紙